

長崎高教組は、11月18日、県庁で記者会見を行い、「教職員の『不祥事』に關わつて―見解と緊急提言―」を発表しました。全文を県教委や県立・市立の学校校長、県公立高校PTA連合会に送り、趣旨を活かしたとりくみをすすめるよう要請しました。以下、全文を掲載しますのでとりくみの参考にしてください。

教職員「不祥事」に關わつて―見解と緊急提言発表

長崎高教組（長崎県高で5つの視点から、いまを明らかにしたい。教職員の「不祥事」に關わつて―見解と緊急提言―）は教員に必要なことは何か、ある職員の問題や問題に學べき方向は何かを見解・提言としてまとめ、これを明らかにしたい。

一人ひとりの教職員にあっては、生徒の人格的成長に絶えず關わつていくという原点を再認識するとともに、教育は共同の営みという立場を保持し、発展させることである。

教育に身を置いたとき員にも例外なく当てはまる誰もが、人を育てるといえるものである。

「誇らしい思い」と教育は共同の営みである。果たし教育指導。しかし長年の教育行ができるのかという「不祥事」は、この協力・共同の安んずる思いを抱え込ん 営みに水をさすようなものである。また、善 施策が続き、教職員の横と悪や強と弱、実と虚なのつながりや団結を破壊の二面を持つ自分に揺する方向にすすんでいれることもしばしばである。一人ひとりの教職員は、自分の担当分野―

しかし、私たちが教育 自身の教科やクラスなど上生徒に求める「やらなければならぬこと」は、はたして、共同の営みを破りたたくては、やがては、これに排し、職場「ない」という道理は教職 求められる。

生徒や同僚の苦しみや 書整理などの仕事の多さ悩みを感じるには、絶対 からくる余裕のなさに日条件として自由と時間的々々、苦悩しているのが実余裕が必要である。教職 情である。

員にとって、生徒の教育 諸会議は雰囲気を含め指導での忙しさは苦にな 自由に論議し、合意を成るものではない。生徒に 形成していく場として位直接關わらない報告や文 置つけられなければならない

を明らかにしたい。教職員の「不祥事」に關わつて―見解と緊急提言―

ないのに、会議の形骸化がすすんでいる。一つの問題が生じて個人の問題や他人事として感覚的に片付けられる場合も多い。

教育活動に關わつて、弱音を吐き、苦しみや悩みが自由に会議や職員室

職場の管理職にあっては、生徒の動向とともに教職員の健康や教育活動に巨配り、気配りを行うことである。

管理職は教育行政の施策の徹底を図る前に、教育の模範的立場に立つ教育者である。と同時に、教育条件の整備・改善と生徒の安全や教職員の心身両面における健康の維持にも責任を持つべき立場にある。

管理職にとつてはこうした立場以上に、教育行政の立場を優先するあまり、生徒・教職員を数値目標優先の競争の教育に追い込んでいく現実がある。

現場の教育活動に支障がでるようなことは、毅然とした態度をとるとともに、上記2で提起した教職員の時間的余裕の確保や、自由に論議できる雰囲気づくりをはじめと

ついて、その原因を当該者のモラル欠如とするなど個人の問題としてとらえる向きもあるが、私たち長崎高教組は、教育施策や組織、職務内容にも起因する場合があるという立場に立ち、その改善を提起するものである。

生徒・保護者にとっては、時には学校・教職員のとりにくみを批判することも、建設的な意見を述べることがある。

教育は学校・教職員だけでは成り立たない。生徒の成長を促すためには地域や保護者の理解と協力が必要である。真理・真実を説く学校・教職員も時には、理不尽なことも要求する場合がある。その権限を持つ教育委員会の責任と義務が見受けられたら、大いに批判してほしい。教育行政の在り方は問われていない。是正に向けてどうすればよいか、などの意見を述べてほしいのである。

いまの社会は、自己責任が強調され、連帯しにくい状況にある。しかし、希望を育む学校においてはおくまでも生徒を真ん中に教職員と保護者が手を携えて生徒を励ましていきたい。

また、職場の現状から県当局にも発信するべきことも多々あることを指摘しておきたい。

長崎高教組は、学校運 提言に關わつても教育行政は、援助を惜しみなく行うことが求められると

「偉大な」先輩たちの評価を落とさず、長崎高教組は今後も、こうした立場を堅持し、教育行政の民主化と、支え支えられる職場づくりを奮闘するものである。

「思い・想い・重い」



もう止めた方がよい

県教委の施策「心に響く人生の達人セミナー」は止めた方がよい。元〇〇や前〇〇の肩書きで話がなされる。特に、教育に携わった人



「偉大な」先輩たちの評価を落とさず、長崎高教組は今後も、こうした立場を堅持し、教育行政の民主化と、支え支えられる職場づくりを奮闘するものである。